



新聞広告キャンペーン

皆さまにご協力いただき、『岩手日報』（1月27日朝刊：全5段2色刷）に意見広告を出すことができました（チラシ内面参照）。さらに、これに続いて、2月下旬～3月初めに、第2弾『朝日新聞』（青森・岩手・宮城版：全1段フルカラー）を計画中です。その後、第3弾として、青森あるいは首都圏での掲載を考えています。ぜひ、ご協力下さい！！

郵便振替口座番号：02200-0-105768

加入者名：子どもと海と空の会

一口千円 何口でも可 第2次締め切り：2008年3月末

※ ご寄付いただいた方の名前を公表することはありません。

※ 新聞広告掲載後、コピーと会計報告をお送りいたします。

○「黄色いリボン」&「ステッカー」運動も展開中！

「放射能を海や空に捨てないで！」そんな願いを込めて、車のアンテナに黄色いリボン（何でも可）をつける運動を展開中。

右のようなステッカー（A、B、C各300円、セットで800円）もあります。

子どもと海と空の会（代表：澄川嘉彦）

『事務局』

〒025-0302 花巻市糠塚3-121 望月達也

TEL&FAX:0198-27-4025

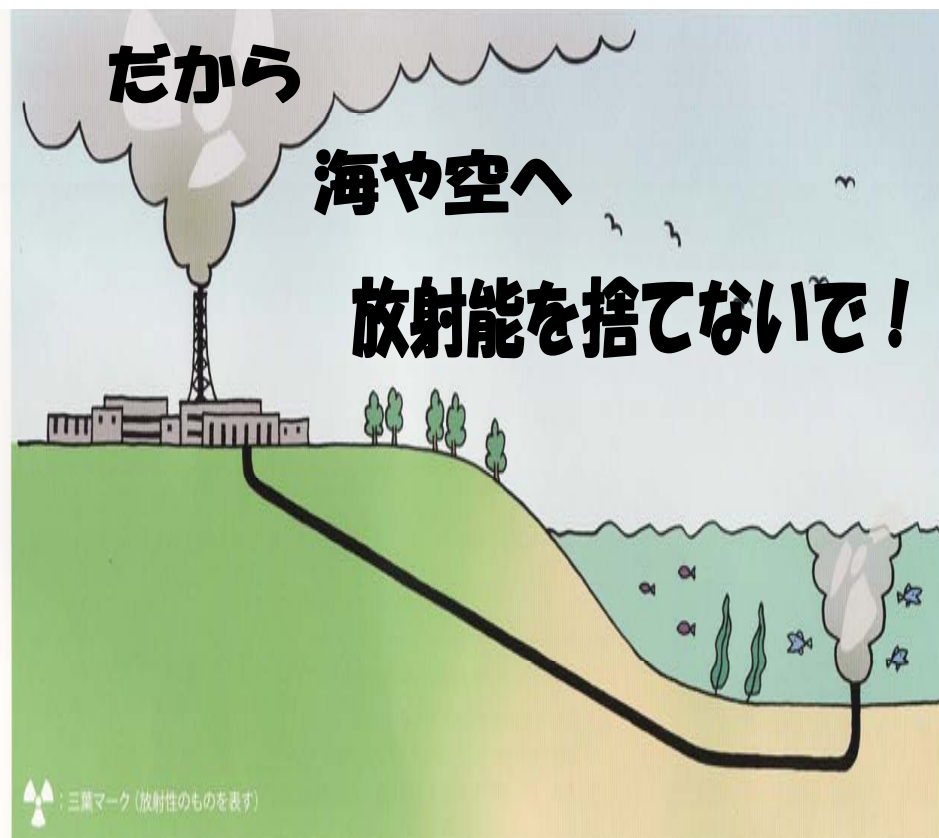
E-mail:kodomo_umi_sora@yahoo.co.jp



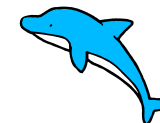
※ステッカーは、下記からもダウンロードできます。

<http://peaceland.jp>

誰だって、海や空はきれいな方がいい



青森県六ヶ所村にある核燃料再処理工場は、すでに試験運転中です。この化学工場が本格稼働（2008年春予定）されると、原子力発電所一基が出す放射能1年分をたった1日で出し、長期にわたる海洋汚染をもたらします。



意見広告

六ヶ所村の再処理工場から 海へ空へ

放射能が 捨てられることを知っていますか？

核燃料再処理工場とは？

- 全国各地の原子力発電所で燃やした使用済みの核燃料から、プルトニウムを取り出す化学工場です。
- その過程で出る放射性物質を、高さ150mの排気筒から空へ、沖合い3km、水深44mの放出管から海へ排出します。
- 原子力発電所が廃液を海へ捨てる際は、放出口での濃度制限がありますが、再処理工場にはありません。

※詳しくは、ホームページを「岩手の環境／再処理」で検索してください。

本格稼働（2008年春予定）で、 原子力発電所1年分の放射性物質を1日で放出！

※原子力安全・保安院（2001）、事業変更許可申請書（2001）により、100万Kw級原子力発電所（大飯原発）と六ヶ所再処理工場の管理目標値を比較



○放射性物質は

- ☞ 長期にわたり放射線を出し続けます。（ヨウ素129の半減期は1570万年）
- ☞ 放射線を出して遺伝子を傷つけるため、細胞分裂の盛んな胎児や子どもに、特に悪影響を及ぼします。
- ☞ 農産物や海産物にたまることが心配されます。

【私たちのお願い】

海に空に大量の放射性物質を捨てないでください。
 少なくとも放射能を除去する装置をつけ、原子力発電所と同じレベルまで規制してください。

- ☒ これを読んで下さった皆さんへ……この事実について考えてみてください。
- ☒ 知事や議員の皆さんへ……子どもたちの未来を守ってください！！
- ☒ 国へ……住民と従業員の生命を守ってください。

♪「放射能を海や空に捨てないで！」そんな願いを込めて、車のアンテナ等に黄色いリボンをつける運動を展開中！

**放射能を流さないことを求める署名
10万 5517筆を国へ提出**

【幹事団体】子どもと海と空の会（TEL&FAX:0198-27-4025 E-mail:kodomo_umi_sora@yahoo.co.jp） 代表 澄川 嘉彦 事務局/花巻市糠塚3-121
 【賛同団体】三陸の海を放射能から守る岩手の会 豊かな三陸の海を守る会 放射能から気仙の海辺を守る鱈の会 三陸・宮城の海を放射能から守る仙台の会
 共生ユニオンいわて 平和をつくろう・ネットいわて 東北自然保護の集い岩手大会参加25団体 平泉・六ヶ所村ラブソディを見る会
 六ヶ所村ラブソディ花泉上映会実行委員会 親潮ネットワーク 無限洞（順不同）※この意見広告は、およそ一千人からのカンパで実現しました。

問題だらけの再処理

○放射能に汚染されたゴミを増やす

核燃料再処理工場では、プルトニウムを取り出すために、使用済みの核燃料棒を細かく切り刻み、硝酸で溶かします。そのため、燃料棒の中に閉じ込められていた放射能を開放することになります。また、1年間で取り扱う放射エネルギーは、一般的な原発の30基分にもなります。このように膨大な放射性物質を扱い、放射能に汚染されたゴミを大量に増やします。そして、最終的には工場自体も巨大な放射性廃棄物になります。

○膨大な放射能を海や空へたれ流す

再処理工場から海へ放出する放射能は、年に約4万7700人分の経口急性致死量です。これほどの放出が許されるのは、他の原子力施設にかけられている放出口での濃度制限が適用されないからです。そして、全量放出されるクリプトンやトリチウムの除去装置は、主として経済的な理由からつけられていません。

このようにして海に放出された大量の放射能は、津軽暖流にのり、親潮前線にはばまれて三陸沿岸を南下します。また、大気に放出される放射能は、地球規模で汚染を広げ、それによって計算上は、

毎年約740人、40年の操業で約3万人が、ガン死すると言われています。

○プルトニウムの使い道は???

再処理工場では、これほどの環境汚染をおこしながらプルトニウムを取り出します。しかし、そのプルトニウムとウランを混合させて原発で使う計画（プルサーマル計画）は、なかなか進まずにいます。しかも、すでに日本には約45トン（長崎型原子爆弾4000発分）のプルトニウムがあります。

世界では、このような再処理をしないで、使用済み核燃料を直接処分するのが主流です。

海や空は世界中とつながっています。そして、人間だけでなく、さまざまな生きものがいます。

再処理工場が本格稼働すると、日本だけでなく、責任のない他の国の人たちや動植物にも被害をおよぼします。また、後の時代にも負の遺産をのこすことになります。

このような再処理工場をこのまま本格稼働させていいのでしょうか？

